

今こそ、基本に返った飼養管理を

第2回 離乳舎の管理

千葉県・なのはなベテリナリーサービス 榎戸利恵

はじめに

読者の皆さん、こんにちは。
農場の調子はいかがですか？
今回は、離乳舎の管理について、農場でよく目につくことから、離乳豚管理の大原則まで、述べたいと思います。すべてできるのが理想ですが、皆さんの農場でできることをするだけで相当変わってきます。

離乳舎の管理

離乳舎での主な仕事（作業）は、
図1のようになります。作業の流れに沿って、述べたいと思います。

やはり基本は オールイン・オールアウト

まず、オールイン・オールアウトの実施を勧めます。離乳舎では、さまざまな病気の感染を受ける日齢を過ぎします。PRRS、PCV2、

APP、場所によってはオ
ーエスキー病など…。農場
の血清検査の結果を診ると、
特に離乳舎でPRRS、P
CV2にかかる日齢が早け
れば早いほど、事故が増加
する傾向があります。

最近、昔ながらのここ
ろてん式養豚から、部分的
でもオールイン・オールア
ウトを実施する農場が増え
てきました。スリーセブン
やツーテンなどのグルーブ
システムも三〇〇頭くらい
までの小規模農場ならば管
理がしやすく、病気の発症
も抑えられる効果がありま

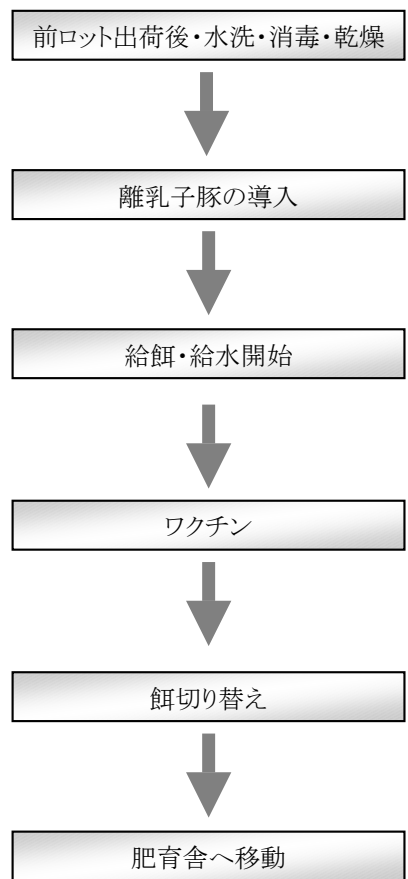


図1 離乳舎での作業の流れ



写真1 日齢の離れた豚が隣り合わせに収容され、接触している。

す。オールイン・オールアウトがで
きなれば、オールアウトを実施す
るのみでも、何もしない場合と比べ
ると、病気の循環を断ち切る効果が
ずいぶんとあります。

また、オールアウトを徹底して実
施している農場では、離乳舎でのP
RRS陰性を維持している農場が多
くみられます。完璧にできないまで
も、日齢のかけ離れた子豚を隣り合
わせの豚房に入れないことです。写
真1は、七〇日齢と三〇日齢の子豚
が隣り合わせに収容され、鼻面を合
わせて遊んでいたもので、撮ったもの
です。このような場合は、最低一豚
房を開けるか、できなければ板など
で仕切りをするといった配慮が必要
です。PRRS陽性農場では、約六
〇日齢前後でPRRS野外株の感染
が認められることが多く、写真1の
ような飼育方法をしていると、離乳
直後の若い日齢の子豚に感染をさせ
る可能性があり、感染の輪ができ上
がってしまいます。

●水洗・消毒・乾燥の重要性

何のために水洗・消毒・乾燥する

のかを頭に入れないと、それを実施
しても意味がありません。つまり、
部屋を丸く掃くのと同じで、何となく
の仕事としていては、きれいに掃
除はできないということです。病気
の感染をこの作業で分断するのです
ですから、感染源となり得るものは
すべて除去しなければなりません。

また、徹底した消毒を実施しな
ければ、ほぼ効果がありません。多く
の農場で、豚舎回転の問題から、が
んばって洗浄・消毒…。そして、消
毒した次の日には豚が入っている、
ということが起きています。感染源
とは…。ウイルスや細菌です。母猪
のふんをPRRSの馴致材料に使用
することからご存知のように、PR
RSウイルスはふん中で生存できま
す。また、大腸菌、PRRSウイル
ス両方とも乾燥に弱いというのが
特徴です。つまり、病気の循環を止
める、非常に重要なキーワードは「乾
燥」なのです。おろそかになってい
る読者の方、ここには十分ご注意ください。
ださい。

時間がなければ、ファンやジェツ
トヒーターなどを使用して、乾燥を

強化してください。そうしないと、
せつかく一生懸命洗浄をしたのがす
べて水の泡です。

洗浄・消毒・乾燥後、フードスタ
ンプを用いて大腸菌検出を試みた結
果、餌箱、壁、すのこ、給水器のす
べてから大腸菌が検出されたことが
あります。見た目はきれいですが、
やはり乾燥が不足していたように感
じます。

離乳舎移動時のストレス を軽減させる方法

(1) 給餌準備は子豚導入前に済ませ ておく

離乳子豚は、離乳や移動・群編成
といった、基本的に生まれて初めて
経験することによりストレスだらけ
で、パニック状態に陥っています。

また、空腹ストレスがあるとよく
ありません。離乳後二週間の食い込
みは出荷日齢約五日間の短縮につな
がりますので、たくさん食べさせて
あげましょう。食滞といつて、離乳
後餌の食い込みが悪くなる期間があ

ります。この期間をいかに短縮させ
るかが出荷日齢を短縮するキーポイ
ントになります。

(2) 水は十分飲めるようにしておく

水の不足は採食量を減らします。
一般的に、子豚の餌は乾燥飼料。こ
れはポテトチップスと水に例えるこ
とができます。読者の皆さんは、ポ
テトチップスを飲み物なしで一袋食べ
られますか？ それも毎日。筆者は、
無理です。豚の餌と成分は違っても、
おそらく①病気になる、②便秘にな
る、③腎炎になる、④糖尿病になる
…。

特に豚は腎臓の排せつ能力が低く、
他の種の動物に比べて多量の水を尿
として排せつすることにより、体内
代謝の状態を保っているのです。水
が飲めないストレスは非常に大きな
ダメージです。農場で発育の悪い場
所を見てみると、給水器にゴミが詰
まり、水の出具合が悪くなっている
ことがよくあります。給水器は定期
的に外して清掃・交換する必要があります。
ります。まさか豚舎を建ててから一
度も掃除をしたことのない方はいな

表1 離乳子豚の快適温度帯

離乳舎体重(kg)	快適温度帯(°C)
6～8	28～33
10	25～30
20	22～28

ml/分です。五〇〇mlのペットボトルで一本分です。

水質も非常に大切です。井戸の浅い農場では、一般に亜硝酸性窒素や鉄分の含有値が高い傾向があり、さらに一般細菌が潜んでいたことがあります。このような水を飲んでいく豚は日和見感染を起こしやすくなります。亜硝酸性窒素については対策方法を調査中ですが（よい方法をご存じの方はぜひお教えください）、鉄分、細菌については除鉄器や次亜塩素酸による対策ができます。皆さんの農場でも、年に一度は水質検査を実施しましょう。

いと思いがすが、給水器が詰まっていないうかを、これを機会に一度確認してみませんか。離乳舎のピッカーで必要な流量は五〇〇

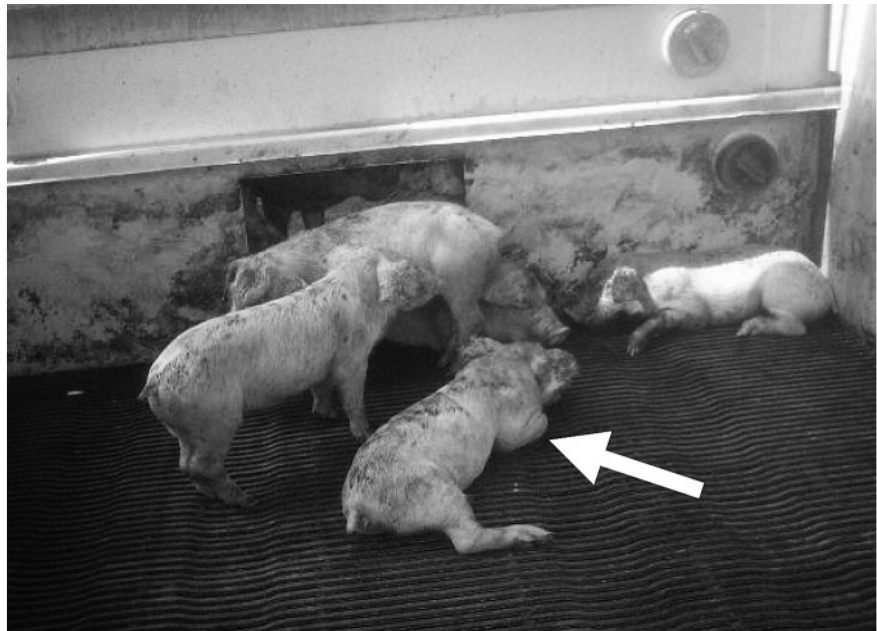


写真2 浮腫病で神経症状が出て、立てない子豚。離乳舎で出やすい病気のひとつ。

(3) 温度管理

必要時は温度を上げましょう。豚舎の移動直後は、快適温度より約二℃高めの環境を設定する必要があります。これは、豚が移動ストレスで寒く感じ、普段よりも高い温度を必

要とするためです。ですから、離乳直後の子豚の快適温度が二八℃程度であれば、プラス二℃の三〇℃にしてあげます。その後、段階的に温度は下げていきます。また、昼夜の温度差は五℃以内になるよう、調節しましょう。快適温度帯については表1



写真3 写真2の子豚を解剖。腸間膜リンパ節が充血している。

(4) 密飼いはしない

密飼いをすると、目に見えるくらいに発育が遅れます。非常に多くの農場でみられるのが、肥育舎への移動が遅れて、体が大きくなって混み



写真4 連鎖球菌症。主に寒さや隙間風が発症要因。

合い、必要面積を満たさないといった状態です。こうなると、豚は混み合っているために餌箱や給水器まで移動しづらくなり、だんだん体型が細くなります。

このような環境ではストレスを感じるため、疾病を拾いやすく、また、

発症しやすくなります(写真2~4)。もし、病豚が出た場合は隔離・淘汰しましょう。

望んで密飼いをする方はまずいなと思います。ただ、肥育舎へ移動する前にストレスを与えると肥育舎で病気の発症する傾向があります。

農場主に聞くとよ

く次のようにに言われます。「だって、入れる場所(肥育舎)がないんです。しようがないでしょう」。

密飼いを解消するには、豚舎回転をよくしなければなりません。豚舎回転が悪いのは、豚舎の収容頭数やレイアウトの誤りや、母豚の繁殖成績が安定しない、疾病による発育不良、経営者の考えの甘さなどのさまざまな原因が考え

られますが、いずれにせよ根本的な問題が影響していることが多いのです。ここで言い訳ばかりをして密飼いを解消しないと、問題解決に向かうどころか、豚舎回転がさらに悪くなる傾向が強く見られます。

(5) ワクチン接種

検査して適正接種日齢を調べましょう。検査は各管轄の家畜保健所が協力的であれば行ってもらえます。また、メーカーなどに依頼するケースもありますが、有料、無料に関わらず、必ず年一回は実施しましょう。筆者は、有料の検査の方が検査結果を有効に使うという意識が生まれて、情報をうまく使えると思います。そういう意味でコスト対効果で考えると、有料の検査もお勧めできます。

ワクチンプログラムは農場の管理獣医師と相談の上、決定し、厳守してください。ここをおろそかにすると、発症するリスクが非常に高くなります。特にAPPやADのワクチンの効果は目に見えて違います。PRRSウイルス、サーコウイルスの

注射針による水平感染を防ぐため、一頭ごとに針の消毒を徹底し、豚房ごとに交換しましょう。また、針のサイズは子豚のサイズに合ったものを使用しましょう。

(6) 餌の切り替え

離乳舎移動直後と同様、慎張に実施しましょう。人間の子供が母乳と離乳食と普通食と変わっていくのを、豚の母乳と人工乳と子豚期用飼料に当てはめて考えると分かりやすいと思います。やはり、離乳食から普通食にするとき、少しずつ、胃がびつくりしないように段階的に切り替えますよね。例えば、野菜をよく煮込んだスープや、肉を軟らかく煮込んだり。おかずとして、いきなりステーキを食べさせませんよね。

豚の場合も、ストレスを極力抑えるために、一週間くらいかけて段階的に少しずつ切り替えていくのがよいでしょう。また、食い込みを落とさないことがその後の発育や病気の発症に大きく影響します。筆者の経験では、餌の切り替え前後に浮腫病の発症が多かったり、その他体調を



写真5 排気口にたかるハエ。



写真6 子豚の家の離乳子豚にも、ハエがたかっている所。耳をブルブル振ったり、尾を振ったりストレスを感じていた。見えていて痛ましかった。

した方がよいと思います。給餌口の約半分まで餌が出ている状態が理想です。

(8) 肥育舎へ移動

移動は豚舎の都合が遅れがちですが、ここはポイントです。密飼いの項でも述べましたが、豚舎が込んできたり、餌食いが止まってきて豚が細くなるようでは移動時期が遅れているというサインです。

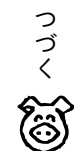
Sの大爆発に二度ほど遭遇しました。また、分娩舎や離乳舎で死亡が多いのは、ゴキブリやネズミの発生が多く感じるのと比例しているような気がします。ネズミの駆除は定期的に実施しましょう。ネズミ駆除業者に委託するのも一つの方法です。

離乳舎の子豚は幼稚園児

離乳舎の子豚は何しろデリケートです。人間でいえば幼稚園児です。人間の子供には、夜の寝冷えやクーラーの直風には注意し、布団をかけなおしたり、クーラーの温度を上げたりしますよね。子豚の親になったつもりで、管理すると自然と発育もよくなります。



次回(最終回)は十月号に掲載予定です。ご質問などがございましたら、rie@nanohanavet.jpまでご連絡ください。



(7) こぼれ餌に注意!

Pやサーコウイルス感染症、PRR Sの発症が増加する傾向があります。飼料費が高騰する中、離乳舎の餌をこぼれるほど与えている人を、たまに見かけます。給餌口の隙間から、豚の売上の半分のお金が出ていきます。飼料の約5%がこぼれ餌といわれています。特に、離乳舎の餌は高価ですので、こぼれないように注意

(9) ハエとネズミ

ハエはPRRSウイルスを機械的に媒介することが発表されています。よって、秋口にハエが異常発生した年は、気をつけた方がよいでしょう。(写真5、6)。筆者の経験では、近隣の農場や野積みふんから発生したハエによる影響と考えられたPRR

崩すケースが多いようです。おそらく、餌の急激な切り替え自体が子豚のストレスとなり、発症要因となっていると思いますし、母親としても個人的にこの部分を養豚場の現場で見ると、可哀そうだし、病気になるのも納得します。読者の皆さんも、餌の切り替え時に、子豚の毛が伸びたり、腹がへこんだりしているのをよく目にすると思います。肥育期の仕上げ用餌への切り替え時も、AP